

No.	ご意見	事務局の考え方
1	<p>岡山県は専攻医採用において「内科」がシーリング対象となっており、ここ数年内科志望医が県外に流出するなど減少傾向にある。</p> <p>図表 10-1-1-1 では内科医数が微増しているが、特に地域人口の高齢化を考慮に入れると、内科医数は総体的に不足が続いていると考えられ、岡山県として専門医機構に「内科」のシーリング撤廃を要望することを希望する。</p>	<p>毎年、国から各都道府県に示されるシーリング案について、当協議会からご意見をいただき国に伝えているところです。</p> <p>加えて、国に対し、内科を含めた専攻医シーリングの「募集定員の設定」について要望しており、令和5年度は「シーリングによる専門医集中の改善状況を検証したうえで、シーリング制度自体の是非も含めた不断の見直しを行う」よう提案しているところです。</p> <p>国の動向を把握しつつ、引き続き要望してまいります。</p>
2	<p>①新見・高梁及び真庭保健医療圏の小児科医師数が少ないという認識は正しいが、彼女らの年齢を考えれば、県が考えている以上に喫緊の課題であることを明記すべきである。</p>	<p>小児科医にかかる課題は、産婦人科医と並び重要な課題であると認識しております。</p> <p>そのため、医師確保計画では小児科・産婦人科について特に項立てして、現状と課題を分析などしているところです。今後とも、地域の実情を把握した上で、関係者のご意見もうかがいながら、小児科診療に対応する医師の確保に向けて取り組んでまいります。</p>
2	<p>②県北においては基幹施設である津山中央病院でさえ、24時間応需体制を行う上で小児科医は全く不足している状況である。したがって、津山中央病院において漫然と自治医大出身者、地域枠の医師の増員配置を図るだけでなく、例えば3か月間の小児科ルーチン研修を義務付けることも早急に検討すべきである。</p>	<p>地域枠卒業医師と自治医科大卒業医師の配置については、これまで関係者と議論を重ねた上で、当協議会に配置方針をお示しし、承認いただいているところです。</p> <p>地域枠等医師は、医師少数区域やへき地の医療を支える役割があることから、ご提案の3か月間小児科ルーチン研修義務付けについては、他の診療科を志望する方にとってキャリア形成に重大な影響を及ぼすことになると考えております。また、医師数の減少につながる配置先のへき地医療拠点病院・市町村にとっては、容易に受け入れられるものではないと思料しております。以上のことから慎重に検討すべきものと考えております。</p>

No.	ご意見	事務局の考え方
	<p>③多数いる内科医に比べて、小児科医はたとえ患者人口が少ないにしても、分娩・急患で一人当たりが時間外対応する頻度は高くなる。<u>産科医に充てるのと同様の手当を支給することも考慮すべきである。</u></p>	<p>県では、従来から、県南西部及び津山・英田、真庭保健医療圏の小児救急医療体制を確保するための補助事業や、高度な医療を必要とする新生児を扱う周産期母子医療センターのNICU等運営費の補助を実施しているところです。</p> <p>今後も、<u>既存事業の効果や今般の医師の働き方改革に伴う影響を見極めながら、小児救急医療体制の確保に必要な対策を検討してまいります。</u></p>